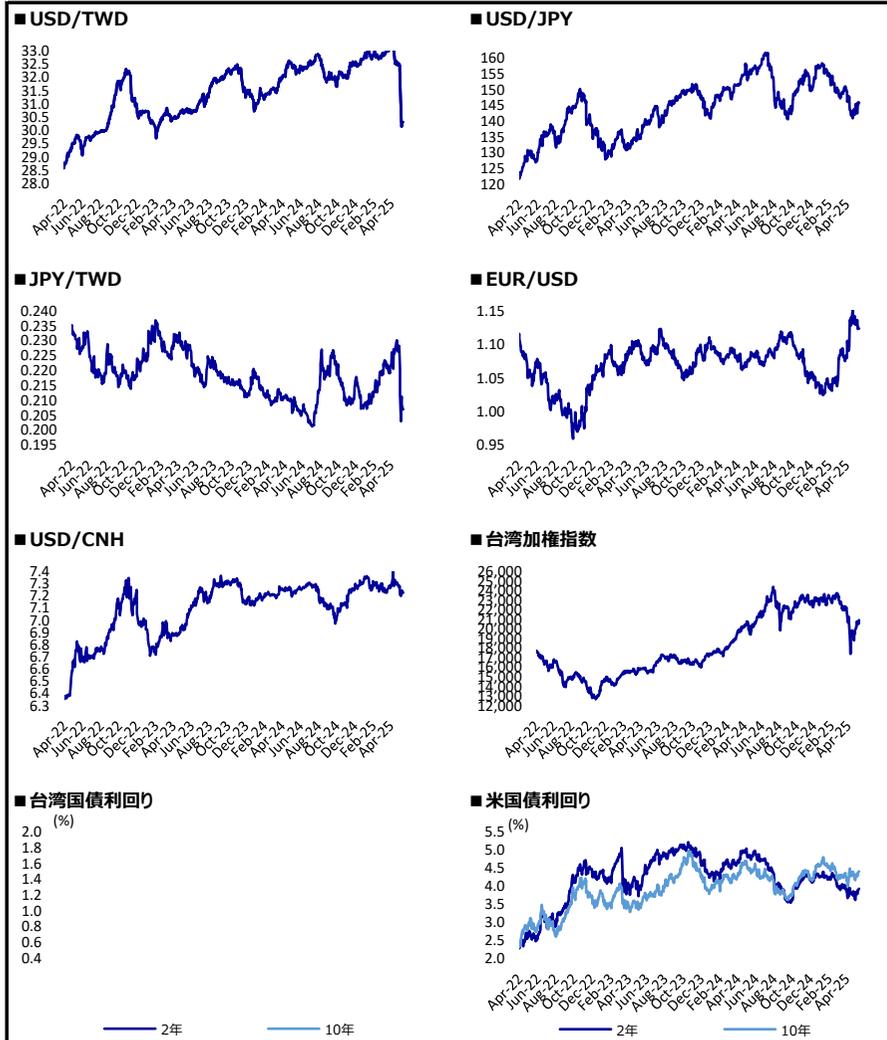


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/5は30.910でオープン後、ドルの買い手が少ない中、売りが売りを呼ぶ展開も変わらず、パニック売りで一時29.590まで急落。その後、台湾中銀が引け後に記者会見を行うという報道が流れ、ドルはやや買い戻された。5/6、先日に行われた台湾中銀の記者会見では急激な台湾ドル高に対する具体的な対策がないため、市場参加者は半信半疑の中、ドルは一時29.988まで反落。しかし、台湾中銀によるポジション調整と見られる動きが確認できると、ドルは徐々に買い戻された。5/7は、台湾当局による調整が功を奏し、足元の台湾ドルの先高観が後退。輸出企業のドル売りも見られたものの、ドルは概ね30.200を中心に上下。5/8は、米FOMCの結果を受け、海外市場ではドル買いが優勢となったが、高値では輸出企業によるドル売りが入り、上昇幅は限定的に留まった。5/9は、米英貿易交渉の進展を受け、海外市場ではドルが買い戻されたため、30.360でオープン。しかし、ドルの上値では輸出企業や外資による売りが入り、上昇幅も限定的に留まった。最終的には前週比2.43%ドル安台湾ドル高の30.308で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は780.5億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/5は144.72でオープン後、米中貿易を巡る交渉の進展期待が一服し、ドルは143円半ば付近まで売られたが、米4月ISM非製造業景況指数が堅調に推移したこと受け、ドルの下値をサポート。5/6は、ドイツのCDU党首メルツ氏が首相就任に必要な過半数票を獲得できなかったこと受け、リスクオフのユーロ売り円買いが進み、ドルも一時142円台まで買われた。5/7は、米中通商協議に関するヘッドラインで143円台前半に上昇した後、FOMCでは予想通り政策金利を据え置いたが、利下げを急がない姿勢も示したことを受け、ドルは143円台後半まで上昇。5/8は、米金利上昇を背景に145円台後半まで上昇した後、米英貿易交渉合意の報道を受け、米株高・米債利回り上昇・ドル高の流れで、円は一時146円台まで反落。5/9は、対英・対中関税交渉の進展が見られたことで、円は146円台まで下落。しかし、上値ではドルの戻り売りが厚く、一時144円台後半まで反落。最終的には前週比0.28%ドル高円安の145.35で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：29.900-30.500
今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を見込む。米中の高官協議や米国の指標の内容次第で上下双方向に振れるリスクがあるだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：144.20-148.00
今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。11日まで2日間行われた米中高官協議で双方が前向きな姿勢を示したことがドルを支えるものの、今後の交渉が貿易合意に向け進むか未知数で、上値追いには引き続き慎重な展開も予想される。

今週の予定

5/12 (MON)	日4月景気ウォッチャー調査、米4月財政収支
5/13 (TUE)	米4月消費者物価、トランプ 米大統領中東訪問
5/14 (WED)	
5/15 (THU)	米4月生産者物価、米4月小売売上高、米4月鉱工業生産
5/16 (FRI)	日1-3月期GDP、米4月住宅着工件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。